

市誌編さんだより Vol.4

「高浜市誌 第二巻」の編さんから約40年。本格的に市誌編さん事業がスタートしました。奇数月の1日号にて編さん状況を紹介しています。第4回目の今回は、部会の活動状況を紹介します。

◆先史・古代・中世部会

高浜市域に人の生活の痕跡が確認できる縄文時代から、江戸幕府成立までを主として調査執筆する部会です。現在は主に、高浜市・刈谷市・碧南市という衣浦湾東岸地域の遺跡の場所や立地を確認するフィールドワークや、遺跡から出土した土器などの検討を行っています。

高浜市内では現在、12の遺跡が確認されています。なかでも特徴的なのは、塩づくりに用いた土器（製塩土器）が出土した王江遺跡おうえと研屋遺跡とぎや（ともに田戸町）で、海に面した高浜市ならではの性格を持っているといえます。王江遺跡からは古墳時代初頭の、研屋遺跡からは平安時代の製塩土器が見つかっており、かつて高浜市域では、長期間にわたり土器を用いた塩づくりが行われていたと考えられます。今後さらに調査が進めば、1000年ほど前にこの地域にいた人びとのくらしが、より鮮明になってくるでしょう。今後に期待してください！



◆近世・近代・現代部会

主に江戸時代から現在までという、とても幅広い時代について調査執筆を進めており、今回の市誌編さんにおいて最も内容が多く、重点を置いている部会です。

かつて高浜市は、高浜町<明治33（1900）年までは高浜村>・吉浜村・高取村という1町2村にわかれていました。その後、明治39（1906）年に合併し、高浜町というひとつのまちになりました。市内には江戸時代以降の古文書や行政資料などが数多く残されており、現在はその膨大な資料の内容確認を進めています。

高浜町・吉浜村・高取村はかつてどのような特徴があったのか、それが合併して現在に至るまでどのような地理的・社会的な変化があったのか、調査によって明らかにされようとしています。この内容は、現在さらには未来の高浜市を考えるうえで重要なヒントを与えてくれるでしょう。



◇今回の市誌編さんは、専門家の調査だけでなく、市民の調査協力員や大学生、中高生と聞き書き調査・執筆を行います。また、自宅などに高浜に関する資料(特に明治時代～昭和)がありましたら、ぜひ情報をお寄せください。

◇市誌編さん事業に関する詳しい内容は、市公式ホームページの「文化スポーツグループ」のページで紹介しています。